

2014

ANNUAL REPORT

アクサ損害保険の現状



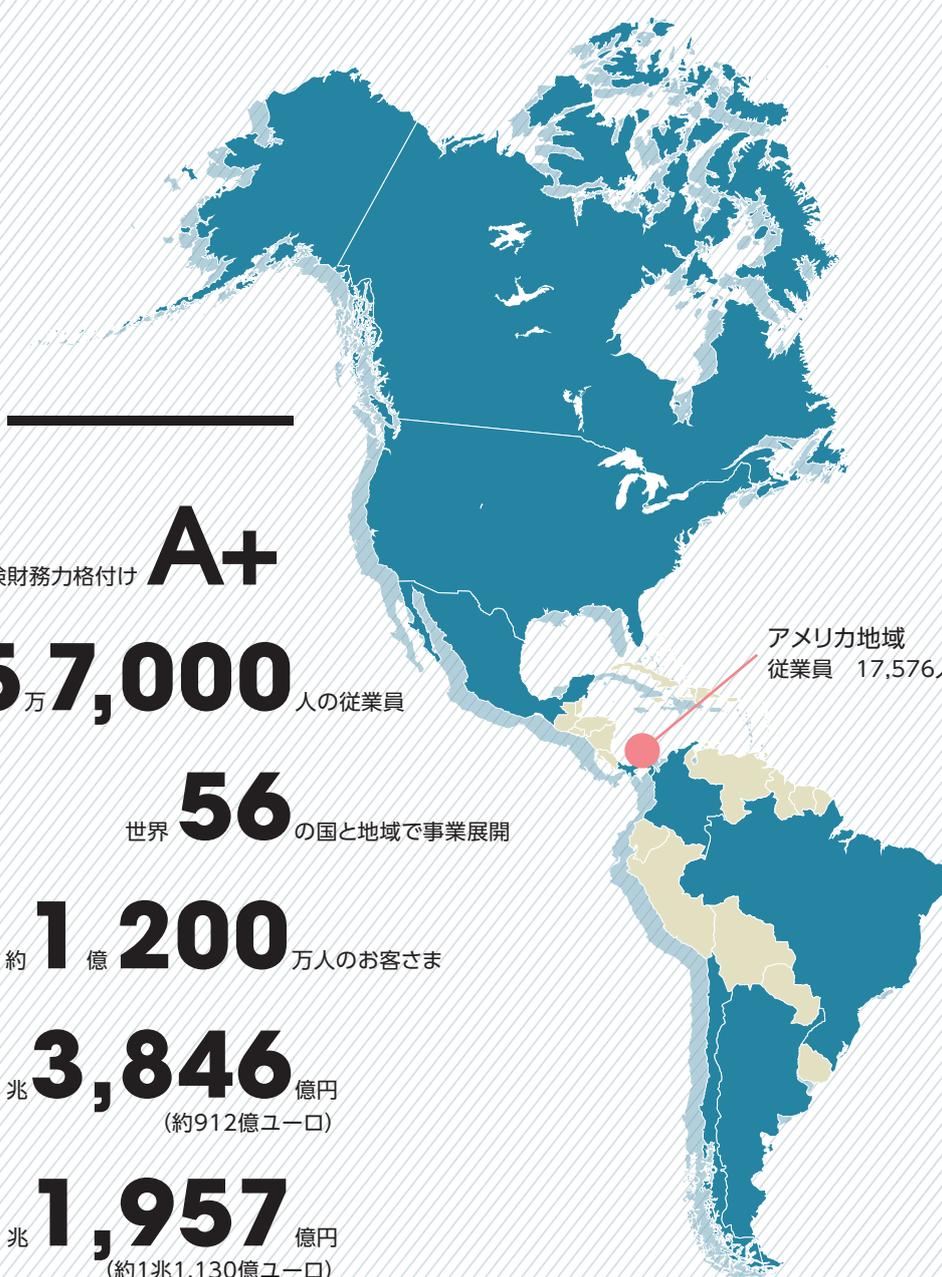
アクサダイレクト

redefining / standards

# AXAは5年連続世界NO.1の保険ブランド\*です

AXAは1817年にフランスで生まれ、世界56の国と地域、約1億200万人のお客さまから信頼をいただいている世界最大級の保険・資産運用グループです。

\* インターブランド社[BEST GLOBAL BRANDS]より



S&P 保険財務力格付け

# A+

世界に 約 **157,000** 万 人の従業員

世界 **56** の国と地域で事業展開

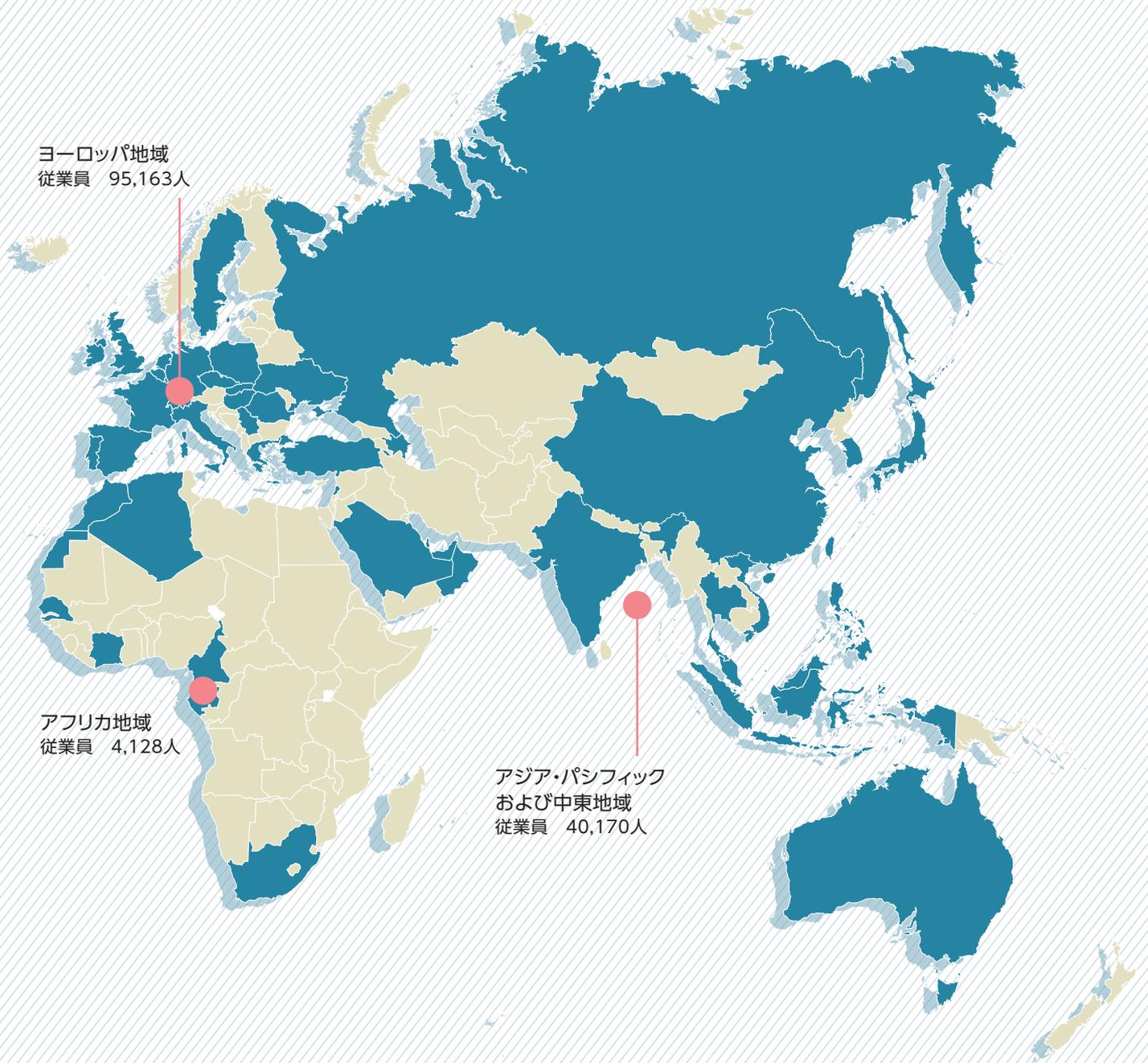
世界に 約 **1億200** 万人のお客さま

総売上 約 **11兆3,846** 億円  
(約912億ユーロ)

運用資産総額 約 **161兆1,957** 億円  
(約1兆1,130億ユーロ)

アンダーライニング・アーニングス  
(基本利益) 約 **5,898** 億円  
(約47億ユーロ)

純利益 約 **5,591** 億円  
(約44億ユーロ)



数値は2013年 AXAグループ実績

※ 換算レート

総売上、アンダーライニング・アーニングス、純利益：1ユーロ=¥124.76(2013年平均)

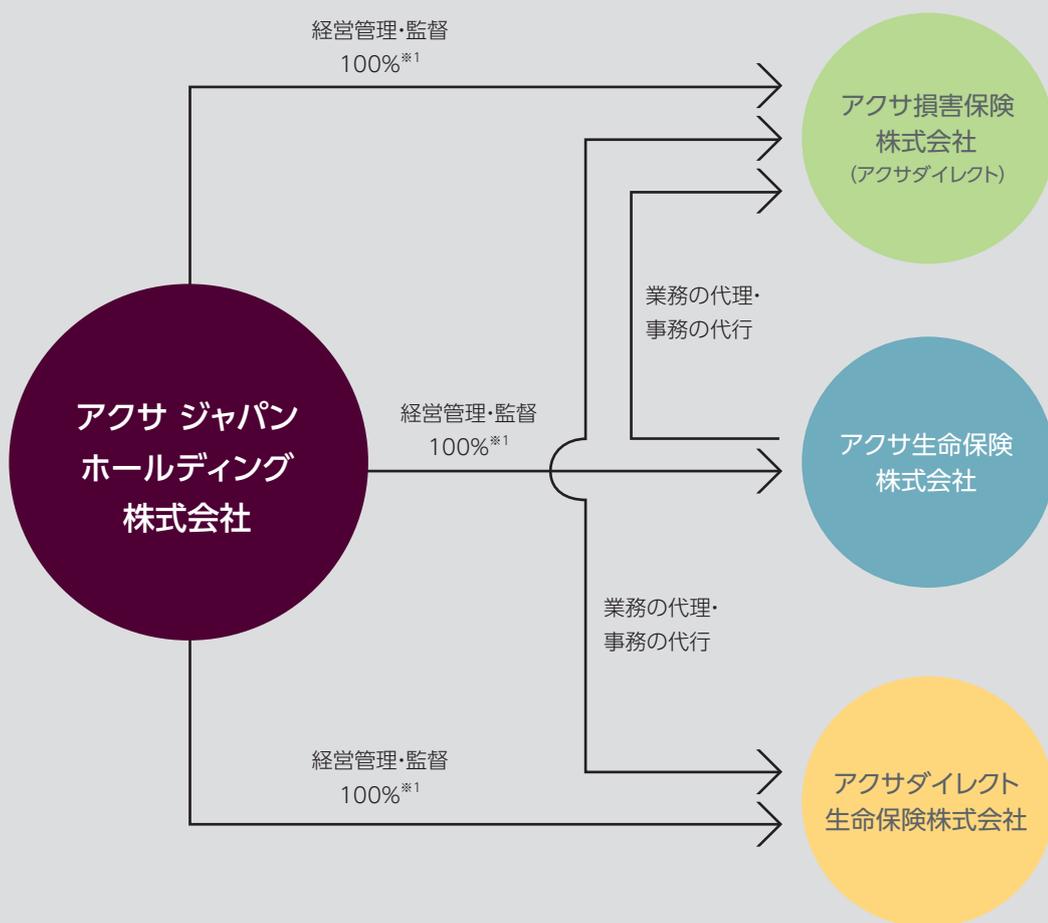
運用資産総額：1ユーロ=¥144.83(2013年12月末)

※ アンダーライニング・アーニングス(基本利益)とは、アジャステッド・アーニングス(調整後利益=非恒常的取引による影響額とグループ全体の営業権償却額を除いた純利益のグループ持分)から株主に帰属するネット・キャピタルゲインおよび2001年9月11日の米国同時多発テロによる影響を除いたものです。

※ 標記の格付けはアクサ損害保険の格付けではありません。2014年6月1日時点のAXAグループの主要な子会社に対する格付機関の評価であり、保険金支払等について保証を行うものではありません。また、将来的には変化する可能性があります。

# AXAグループの日本における事業展開

AXAグループは日本において、保険、資産運用、アシスタンスなど、  
 フィナンシャル・プロテクションに関するさまざまな分野で事業を展開しています。  
 保険分野を担当する4社を中心に、AXAメンバーカンパニーとも密接に連携し、  
 お客さまの一生涯をサポートする商品・サービスをご提供しています。



※1 アクサ ジャパン ホールディング株式会社が所有する議決権の割合

※ 2014年6月30日現在、アクサ ジャパン ホールディング株式会社とアクサ生命保険株式会社は、関係当局の認可を前提として、2014年10月1日付に合併することを決定しました。アクサ ジャパン ホールディング株式会社の子会社である当社(アクサ損害保険株式会社)とアクサダイレクト生命保険株式会社は、アクサ生命保険株式会社の商号と業務を承継する合併後の新会社の100%子会社となる予定です。詳細はアクサ ジャパン ホールディング株式会社またはアクサ生命保険株式会社の公式HPをご確認ください。

↑ 連携

## その他のAXAメンバーカンパニー

### 資産運用サービス

- アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
- アライアンス・バーンスタイン株式会社

### 不動産投資・資産管理サービス

- アクサ・リアル・エステート・インベストメント・マネージャーズ・ジャパン株式会社

### アシスタンスサービス

- アクサ・アシスタンス・ジャパン株式会社

## 損害保険業

### ■ 損害保険業免許に基づく保険の引受け

保険業法第3条第5項に係る保険の引受けを行っています。

### ■ 資産の運用

保険料として収受した金銭等の資産の運用として、主に有価証券投資等を行っています。

### ■ 他の保険会社の保険業に係る業務の代理または業務の代行

保険業法第98条第1項第1号に基づき、他の保険会社の保険業に係る業務の代理または事務の代行を行っています（アクサダイレクト生命保険株式会社の保険業に係る業務の代理および事務の代行等）。

## 生命保険業

### ■ 生命保険業免許に基づく保険の引受け

保険業法第3条第4項第1号、2号、および3号に係る保険の引受けを行っています。

### ■ 資産の運用

保険料として収受した金銭等の資産の運用として、主に貸付、有価証券投資、不動産投資等を行っています。

- 貸付業務                      資産運用の一環として、企業・個人向けの貸付やコールローンを行っています。
- 有価証券投資業務          資産運用の一環として、有価証券（外国証券を含む）投資、有価証券の貸付を行っています。
- 不動産投資業務              資産運用の一環として、事業用ビル等の不動産投資を行っています。

## 付随業務

### ■ 国債等の引受け

保険業法第98条第1項第3号に係る国債などの引受けを行っています。

### ■ 他の保険会社の保険業に係る業務の代理または事務の代行

保険業法第98条第1項第1号に基づき、他の保険会社の保険業に係る業務の代理または事務の代行を行っています（アクサ損害保険株式会社の保険業に係る業務の代理および事務の代行等）。

## 生命保険業

### ■ 生命保険業免許に基づく保険の引受け

保険業法第3条第4項第1号、2号、および3号に係る保険の引受けを行っています。

### ■ 資産の運用

保険料として収受した金銭等の資産の運用として、主に有価証券投資等を行っています。

### ■ 他の保険会社の保険業に係る業務の代理または事務の代行

保険業法第98条第1項第1号に基づき、他の保険会社の保険業に係る業務の代理または事務の代行を行っています（アクサ損害保険株式会社の保険業に係る業務の代理および事務の代行等）。

「ダイレクト」型損害保険ビジネスを  
推進する起業家精神のもと  
お客さまに「選ばれる企業」を目指し  
さらなる革新を続けます



お客さま、当社関係の皆さまには日頃からお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。本ディスクロージャーをお届けするにあたり、ご挨拶をさせていただきます。

当社は、1998年6月の設立以来、おかげさまで昨年(2013年)創業15周年の節目を迎えることができました。これもひとえに、多くの皆さまのご支援の賜物と存じます。心より御礼を申し上げます。

2013年度(2013年4月～2014年3月)を振り返りますと、まず国内のマクロ環境においては、安倍内閣主導の経済再生政策(アベノミクス)による一体的な取組効果により、家計や企業の景況感が改善し、消費等の内需を中心として景気回復の動きが広がりました。その後、米国の量的緩和(QE3)の縮小を巡り、円安・株高も一服しましたが、この間も堅調な個人消費のおかげで経済指標の改善は続き、景気回復の動きが確かなものとなりつつあります。一方、海外情勢に目を向けますと、懸念されていた米国の「財政の崖」問題は回避され、ユーロ圏経済もようやく回復局面へと移行しつつあるものの、中国など新興国の経済成長の鈍化、ウクライナ情勢をはじめとする民族・イデオロギーの分断による緊張の高まり等、世界経済に影を落とす不安要素が存在している状況でございます。

国内の市場に目を転じますと、当社の主力商品である自動車保険市場においては、本年4月の消費税引き上げに応じた駆け込み需要の影響等により、新車販売台数が対前年比大幅増を記録したことに呼応し、自動車保険契約も一時的な追い風を受けました。しかしながら、中長期的には、少子高齢化・人口減、若年層の車離れが続いており、全体的な自動車保険マーケットの拡大は大きく期待できる状況ではありません。ダイレクト自動車保険のマーケットシェア争いにおいては、積極的な広告投資もしくは低価格戦略を採用する新規参入企業との競争が引き続き厳しく続いております。損害率においては、本年2月に関東甲信を2度にわたって襲った16年ぶりの記録的な大雪は、業績への大きな圧迫要因となりました。また、進行している修理コストや資材・サービスコストにおけるインフレーションにより、損害率、経費率双方へさらなる圧力が強まると予想されます。このような概況から、益々一層の経営努力が必要な状況であると認識しております。

昨年度はこのような環境のもとでも、当社の元受正味保険料は自動車保険の新契約件数の増加等により、前年同期比7.0%増の42,298百万円となり堅調な成長を実現しました。自動車保険保有契約件数は2014年3月末において約94万件に上っております。

また、正味損害率は前年同期比0.8ポイント低下し66.8%、正味事業費率は21.9%と、適切に管理を行ったことで、経常利益は前年同期比492百万円増の2,340百万円、純利益は2,539百万円を計上しました。この結果、ソルベンシー・マージン比率は842.7%となり、強固な財務の健全性を維持しております。

このように当社は利益ある成長を実現しておりますが、今後も慢心することなくより一層お客さま、従業員、株主、パートナー企業など当社ステークホルダーの皆さまから「選ばれる企業」を目指して努力をし、研鑽を積み重ねていく所存でございます。

そしてこの場をお借りして、昨年よりこれまで実現した事例をいくつかご紹介しますと、お客さま向けサービスにおいては、iPhone向けアプリ「事故解決ナビ」のリリース、インターネットによる「ご契約内容変更手続き」の機能拡充、札幌損害サービス拠点の開設を行いました。商品面においては、ダイレクト系損害保険会社としては業界初となった自動車保険の「地震・噴火・津波危険【車両全損時一時金】特約」に対して、お客さまから想定以上のご支持をいただくことができました。そして、2011年に販売を開始したペット保険においては、2013年4月始期以降のご契約を対象に保険料を大幅に魅力的な水準に変更するとともに、2013年10月1日以降に更新を迎えるご契約より、愛犬・愛猫の継続可能年齢を満13歳から終身へと拡大し、ご契約件数を大きく伸ばすことができました。加えて、商品の多様化においては、日本にあるAXAメンバーカンパニーとの連携も強め、アクサ生命、アクサダイレクト生命との商品相互供給なども一段と進めた一年でございました。

もちろん、責任ある一企業市民として追求すべき課題は財務指標の改善だけではありません。諸課題解決に向けたアクションプランを着実に履行するとともに、各種CR(企業の社会的責任)活動も精力的に実行しております。本年1月には、一般社団法人日本損害保険協会に入会し、業界の発展などに、より積極的に関与していく所存でございます。

今後ますます、法令遵守、情報セキュリティや顧客保護など経営の安定を主眼としつつ、「ダイレクト」型損害保険ビジネスを推進する起業家精神のもと、販売方法、商品・サービス、保険料設定等において、さらなる革新を続けていく所存でございます。そして、インターブランド社の評価により保険ブランド5年連続No.1となった世界有数の保険・金融グループであるAXAのメンバーカンパニーであることを当社固有の強みとして、グループが掲げるバリューやヴィジョンを共有し、各国におけるベスト・プラクティスやナレッジを活用し、お客さまより「頼れるね」と呼ばれる、日本に根付いた独自性のある価値の創出を目指してまいります。

お客さま、ご契約者さま、ご関係の皆さまには重ねて御礼を申し上げますと共に、今後とも社員一同弛まぬ努力を続けてまいりますので、尚一層のお引き立てとご愛顧を賜ることができましたら幸甚に存じます。何卒よろしく願い申し上げます。

代表取締役社長 CEO

藤井靖之

# CONTENTS

<b>02</b>		AXAグループの日本における事業展開
<b>04</b>		CEOメッセージ
<b>07</b>		経営戦略 Ambition AXA
<b>12</b>		CR活動
<b>14</b>		I アクサ損害保険の現況
		14 1 事業の経過および成果等
		17 2 内部統制システム構築の基本方針
		17 3 コンプライアンス(法令遵守)の体制
		18 4 リスク管理の基本方針
		19 5 勧誘方針
		20 6 お客さまに関する個人情報の取扱いについて(プライバシーポリシー)
		22 7 利益相反管理体制
		22 8 保険金等支払管理態勢
		23 9 反社会的勢力に対する基本方針
		23 10 監査・検査体制
		24 11 主な取扱商品
		26 12 お客さまサービス
		28 13 保険のしくみ
<b>34</b>		II 業績データ 当社の主要業務に関する事項
<b>47</b>		III 業績データ 財産の状況
<b>56</b>		IV 会社概要
<b>61</b>		損害保険用語の解説(50音順)